
白と黒

夢兎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白と黒

【著者名】

夢鬼

【あらすじ】

数日前、まだ世界に色があった頃、人々は憎しみで絶えなかつたそんなある日ついに空は憎しみに耐えきれず壊れてしまつた…それから世界は色を失つた…

?・プロローグ

まだ色があつた世界 :

「ウソツキ！」

ピキッ

「死んじゃえよッ！」

ピキイツ

「お前なんかいらぬよ」

パキイツ

「なんだア？」「ノ野郎！！」

ピキ…ピキイ…

「お前なんて…大つ嫌い」

ガツシャアアアアアン

人々の憎しみに耐えられなくなつた空は、ついに色を失つた…

?・今なんて

あれから何百年たつたのだろうか …

「…ん」

誰かに呼ばれた気がした。カーテンの隙間からむしむ灰色の太陽の光が眩しい…

「ん…ふああ～あ」

ボリボリと頭を搔く。まだ眠たくて右の瞼がうまく開かない。

「今、何時だろ…」

んじょつと立ち上がり、机の中から田舎まし時計を取り出す。

「…ん、12時かあ」

そろそろ起きなくては…とカーテンを開ける

「…いつもど、同じかあ」

そう咳きながら窓の景色を見る…

空に広がるのは灰色。

その色は晴れであろうと雨であろうといつまでも続く。

数十年前までは晴れであつたら鮮やかな青、雨であつたら真っ白い雲に覆われた空だった…だが色が失われた今では空の色はいつまでも同じなのだ。下を見れば、ごちゃごちゃした濃い灰色の建物が広がる。歩く人々の肌は皆白で、顔は黒いもやに包まれている。あの時以来、人々は信じる心を失い顔を見せることも許さず黒いもやに包まれるようになつた。本当の顔がみれるのは母の腹からでてきた瞬間だけなのだ。だから私は自分の本当の顔を見たことがない。見たくて黒いもやが見ることを拒むのだ。昔のように戻れたら良いのにと私はいつも思った。必ず全てを疑う人々はあまり会話をしなくなつた。会話といつても挨拶程度。無口が多いのだ。「…母さん」血の繋がつた母さえも私を疑いでいった。ポロポロと流れ落ちる

ように涙が溢れた。

「昔だったら、色が失つてなかつたら…一緒に居られたのかなあ…」
昔は人々もそんなに疑い深くなかったし、孤独ではなかつたと思う。

「ね、フュー？」

?・今なんて（後書き）

第一話なのに暗い話へと突入…こんなんでいいんでしょうか、私は
(^_^.)
まあとりあえず頑張ります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7731a/>

白と黒

2010年10月17日07時36分発行